

南国からの便りです

海外研修旅行 取材日記 7日め①

搭乗した飛行機



飛行機
内でリラックス

約6時間半のフライトを経て、シンガポール空港に到着。外に出た際の

シンガポールの熱気に包まれ

11月10日(月)、前団の生徒は早朝からバスに揺られ、関空でシンガポール便に搭乗。機内は談笑で満たされ、離陸時にはどよめき。機は空を駆け上がって雲の上へ。機内食がカートで運ばれて来た頃には大分気分も落ち着き、皆く

つろいだ様子だった。



シンガポール空港に着いた生徒たち。

蒸し暑さは中々体験出来ないもので、風呂場に入ったのかと思うほどである。その後、バスでレストランへ。海鮮中華場は大いに盛り上がり、あちこちでシャッター音が鳴った。ホテルで割り当てられた部屋

(前団・鷲)

で長旅の疲れを癒す。他の部屋へ遊びに行く生徒の姿もあつた。バスに揺られること2時間半。着いた関西空港で、悠々と空の彼方にかすんでゆく飛行機を目の前にして、生徒達は色めき立った。手続き、搭乗共に大きなトラブルもなく、生徒達は快適な空の旅を楽しんだ。この間の機内食は、昼食に一回あった。和食と洋食の二択で、前者は蕎麦、後者は鶏肉がメインディッシュとして出された。機内では各人にテレビ画面が用意され、映画やゲーム等が楽しめた。



いよいよ始まった海外研修旅行。2年生はシンガポールへむけて昨日(11月10日)出発した。新聞部ではこの旅行の様子を、現地から携帯メールを使って送られてきた記事と写真でお伝えします。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

豆知識① 緊急時には...

これから毎号、旅先で得た面白い豆知識を紹介していきたい。今日は現地ガイドのミサさんから伺った、先程も登場した通行無料の高速道路の話だ。シンガポールの高速道路の脇には、大抵「ねむの木」が植えられている。しかし、チャンギ空港近辺の道には部分的に、街路樹が椰子の木になっている箇所がある。その例外は何故のものか。ガイドのミサさん曰く「その道は緊急時の滑走路になる」ということだ。緊急とは、すなわち戦争のこと。緊急時には植えられた椰子の木の数だけ、そこに軍人が付き、木をきりたおす。ねむの木よりも、椰子の木の方が斬り倒し易い。そして、滑走路は一時間以内に完成するという訳だ。バスに乗っていた皆が「なるほど~!」と納得していた。たいした考えではあるが、くだんの事態は起こらないことを願う限りである。(前団・鷲)



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

杏仁豆腐が人気

後団のメンバーは11月10日の午前8時にいるは松駐車場に集まり、関西

国際空港へ向けてバスでの長旅に乗り出した。バスの中ではまだ見ぬシンガポールに期待を抱いているのだろうか、皆落ち着かない様子だった。

よいよ搭乗となる。初めて飛行機に乗る人もいて、緊張と期待からかざわめきは止まなかった。

飛行機の中ではゲームや映画を見ることができ、それぞれが思い思いの時間を過ごしていた。また国際線ということで機内食の他にアイスクリームのサービスもあり、至れり尽くせりであった。

シンガポールに着くと興奮は最高潮に達した。レストランへの道中、道沿いに日系企業の看板を見つけたことで、バスの中がわつと沸き上がる一幕もあった。
夕食は中華料理で、人気だったのが杏仁豆腐であった。ここでもそれぞれ写真を撮ったりと自由に時間を過ごしていた。その後ホテルで解散となり、忙しい初日が終わった。

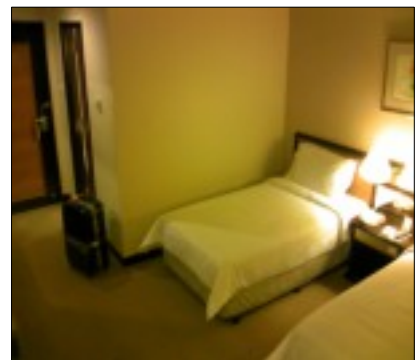
(後団・Y)

空港を出たとたんむしむしとしたしけた空気と夏のような暖かい気候が体を包んだ。道路の近くに生えている木々さえも日本と違い横に長い木々が並ぶ。その後すぐにバスに乗り込み夕食の会場である中華料理店に向かう。

日本のお米が最高 VS 意外といける

シンガポールの

の高速道路はなんとただ！おかげで渋滞が全くないとか！夕食会場にはバスごとに男女いくつかに分かれて



ゴールデンランドマークホテルの部屋(前団)

テーブルに着いた。木耳の入ったスープに蟹、魚、イカのフライや炒飯、杏仁豆腐がだされた。夕食について感想を聞くと一組女子は「日本のお米が最高、インディカ米はちょっと…」、「塩辛い」「なんでこんなに油っこいの」とのことだったが、その割には皆よく食べていた。また、「意外といける」との声もあった。その後一同は再度バスに乗り込みホテルに向かい部屋に入ってから思い思いのことをしていた。

(前団・慧)

天候は

「飛行機内は全然寒くなかった。シンガポール到着時は小雨。その後曇り。湿度80%。気温26。半袖にならなくても、長袖で過ごせる。今日一日、どこもとても暑い、寒いということはない」とのこと。



楽しそうな夕食(後団)



評価は色々。でもみんなよく食べていた



マーライオンと共に



海外研修旅行
取材記

2日目① さまざまなか角度から シンガポールを満喫



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

曇天模様の空の下、二日目は始まりました。後団の行動は午前中はほとんど前団と同じ。昼食の飲茶の時に前団と鉢合わせとなり、久々の再会を喜び合う場面も見られた。後団は午後にはリパークルーズを



研修旅行2日目。午前は前団後団とも同じで、午後からがクラス別研修という日程だった。

した。クラス毎に船に乗り込み、地上より低い川の水面からシンガポールの町を見渡した。マーライオンが

前団と再会も

違う角度

エスニックな雰囲気



出発準備をするボート

角度で見る町並みに、メンバーたちは少し興奮気味だった。船内に流るる曲がエスニック

編集後記
このキマグレは、部員たちが現地からその日の終わりに1日のレポートを送信して、作成しています。そのため発行するのは翌朝になります。ご了承ください。

かくしてシンガポールの町を満喫した二日目は終わりを告げた。
(後団・Y)

鍋の前でハニカム



夕食は雑炊つきの豪華版!

な雰囲気をもり立てていた。チャイナタウンやアラブ人街の散策の後には免税店でギフトを買った。貴方へのギフトもあるかもしれない。夕食はお鍋で雑炊つきの豪華版。一つの鍋を多人数で突っついていもんだ。思わずテンションがでる。ジャスミンティ早飲み競争なんてする人がでてるわけなのです。店員さんも明るくてノリがいい。かくしてシンガポールの町を満喫した二日目は終わりを告げた。

壮観かな、マライオン



シンガポールは緑を大切に
しており、予想していたほど
天で小雨が時々

11日はバスで
クラス毎に市
内の名所を廻
る。天候は曇
る。天候は曇
る。天候は曇

2日め②

海外研修旅行
取材日記



大都会のよつにも見えず、
街路樹だけの日本に比べ
ると非常に開放的である。
最初はマライオンパー
ク。轟々と水を吐き続け
るその像をバツクに集合
写真を撮る。様々な国籍
の人々で賑わう公園で、
露天も見られた。次に向
かったのはマウントフェ
ーバーという高
台。ここは観
光客は少ない
ものの、街並

クラス別研修

いよいよ市内散策へ



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

研修旅行の予定

- 1日目 11/10(月)**
シンガポール空港(市内で
夕食)
- 2日目 11/11(火)**
午前
シンガポール市内観光
マライオンパークなど
午後 クラス別
1・4・6・9組は
バードパークなど
2・3・5・7・8組は
リパークルーズなど
- 3日目 11/12(水)**
マレーシアへ
ホームビジット
- 4日目 11/13(木)**
シンガポール市内班別自主
研修
ナイトサファリ(夕食)
シンガポール空港
- 5日目 11/14(金)**
帰国
関西国際空港へ

会場は拍手喝采

はまず見掛けない
鳥が何種類とエリ
アに分かれて観覧
出来る。また、係
員によるショーが
行われ、人から人へと鳥が縦
横無尽に飛び移り、会場は拍
手喝采に包まれた。
最後に向かうはDFSギヤ
ラリアという免税店でのショッ

みの眺望は素晴ら
しいものだった。
次は国立蘭園。
異国情緒溢れる様々
な花々が道の両側
を埋め尽くし、幻
想的であった。
更に次はパー
ドパーク。日本で



蘭園で他の観光客と集合!

ピング。高価な商品が多いも
の、1階にはシンガポール
の特産品が売られており、大
変混み合っていた。
明日はマレーシアでのホー
ムビジットである。
(前団・高嶺)



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号



2日め③

曇天はよい天気

海外研修旅行
取材日記

朝7時のキ
ニングコールで起床しその3

0分後にはホテル五階のホ
ールでバイキング形式の朝食に
舌鼓をつた。そこではケチャッ
プかと思つたものがチリソー
スだったりとハプニングがあ
りなが
らも楽

しい食事となつた。
その後シンガポール名物で
有名な、かのマールライオン公
園に向かった。あいにく天気
は曇りであつたのだが、シン
ガポールでは曇りで日が当た
らず雨が降つてないのが一番

良い天気らしくまさに今日は
最高の天気であつた。マール
ライオンの前でクラスごとに写
真を撮つた後、近くの売店で
しばらくの間自由時間がとら
れ、皆それぞれ家族や部活仲
間などへのお土産を吟味して
いた。マールライオン公園の次
は一同は展望台へと向かった。

(前団 慧)



蘭園のようす(上・左)。おいしそうな昼食の飲茶(下)



赤はチリソース



ゴールドランドマークホテルからの眺め。モスク
がすぐそばにある。

豆知識②

自販機がないのは...

今日のお題は、自動販売機について、にし
よう。日本にはいたる所にあるが、シンガポ
ールには無い、自動販売機。どうして無いの
だろうか。そこには日々、当たり前のように学
校でも駅でも、道端でも自動販売機の恩恵を
被っている私達には考えもつかない事情があ
つた。自動販売機では飲料を金属の缶に入れ
て販売している。缶は殆どの人が正しくゴミ
箱に捨てるが、中にはそうでない人もいる。

しかしそんな道端に捨てられた空き缶一つ
が、シンガポール人約100人の命を奪う。
なぜ? シンガポールにはスコールというに
わか雨がある。雨が降ると不法に捨てられた
缶に雨水が溜まる。放っておくと中に「ボウ
フラ」がわく。東南アジア人の天敵「蚊」の
幼虫が。この地域では様々な伝染病を蚊が媒
介する。湿度や気温は蚊の生育に適切である。
よって、自動販売機の設置は法律で禁止され
ており、道端に自動販売機はないということに
つながっている。

ガイドさんのお話は毎日興味深いものばか
りで、どれを書こうか迷ってしまう。シンガ
ポール人が最高だと思う天候、街中に施され
たクリスマスのしつらえ、林立する高層ビル
の最上階について...今日は残念ながら紹介出
来なかったが、知りたい!と思われた方は帰
国後遠慮なく新聞部部室まで。(前団・鷺)



マレーシアでホームビジット 歓迎の楽器の音色を聞く



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号



音楽に迎えられて。

3日め①

海外修学旅行

修学旅行の3日目は、マレーシアでのホームビジットがメインとなる。歓迎式の後はホームビジット先に行き、昼食も各家庭で頂いた。

国境を越え

いよいよマレーシアへのホーム

ムビジットを控える三日目。国境を初めて陸路で越えるだけあって頑丈な鉄条網を想起したもの、実際は橋を渡る途中という非常に曖昧な代物であった。ビルディングを走るに従って道路両脇に土気色が混じり、郊外の熱帯原生林が視界を緑に染めていく。そして到着した村。各班が指定された家に連れていって頂き、

豆知識③

トイレの違いは...

世界で日本人だけがするトイレの習慣があるようだ。女性に理解者が多いと思うのだが、和式トイレを使う時に日本人は戸を背にして用をたしている。が、他の国は戸を前にしているようだ。

この違い何故に？実は安全意識の違いがこれを生み出したらしい。ガイドのミサさんの友人は驚いたという。「戸から誰か入って来るかも知れないし、後ろから手が伸びて来るかも知れないじゃない！」

日本人は和式トイレの戸に背を向けて久しい。「これは日本が昔から安全だったということ象徴しているのですね」ミサさんは目を細めた。

(前団・鷺)

日ごろの英語の学習の成果を試すという訳である。

班毎にゴム林や油の木、山羊の見学など種々様々な体験をする。民族音楽

や家族との集合写真、そして手づくりの昼食を通して言語の不自由さを越えていく。退村式では互いの代表が挨拶し、お土産を頂き、笑顔と降って湧いたスコールに見送られながらバスに乗り込んだ。夕食はマレー料理のレストランで辛いスタミナの出る食事を掻き込む。



ホームビジット先で。

明日は各班で現地の大学生と自由に市内散策に出掛ける予定である。
(前団・高嶺)



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

異文化体験で成長した!

3日め②

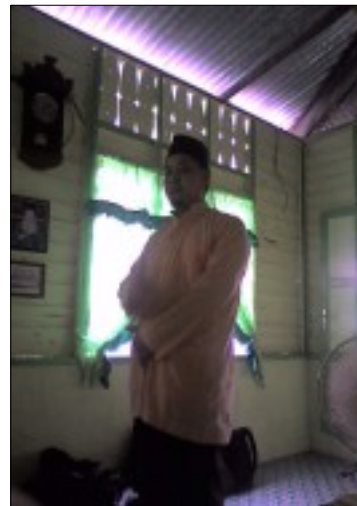
海外研修旅行 取材日記



ホームビジットでの食事風景

三日目はマレーシアの民家のお家にホームビジットする予定になっていた。朝食を済ませ、出発の時が来る。バスの中では歩き回った疲れからか寝る人が多かった。記憶の無い中バスは進み、起

晴天の下スタートした。



民族衣装を着たお家の方

きた頃には日本で言うところの新宿のような雰囲気を感じるシンガポールとは正反対の、辺りをジャングルに囲まれたけれど『T H E・熱帯』という雰囲気のマレーシアの町が広がっていた。到着したが、皆の動きは緊張や不安からか

セントクらしいの笑顔に溢れていた。現地のお坊ちやまやお嬢さんたちも一緒に盛り返るほどであった。最後に生徒代表が『マレーシアはビューティフルなシティだ』

帰りはスコール

固かった。無言のままそれぞれのお宅へ向かう。

私たちが訪れたお宅では、冷蔵庫の会社を営んでいらっしやるというおじさんが出迎えて下さった。慣れないマレーシアの環境、そして言語に戸惑い、なかなか話すことが出来なかった。しかし、マレー料理や熱帯産の果物、数々の伝統文化、自然を体験させてくださるなどのもてなしを受け

けるに従い、徐々に心が打ち解けていった。最後に皆が集合したときも、最初の雰囲気が出た。最後に皆が集合したときも、最初の雰囲気が嘘のようだった。

と言うと、現地の人に笑顔が浮かんだ。感動した。

シンガポールへの帰りには午前中の晴れとは一転して激しいスコールがあり、ひどい雷にざわつく場面があった。夕飯のマレー料理を食べ、就寝。マレー料理は辛い物もあつたが、それなりに好評であった。

シンガポールとはまた違う文化を感じることのデキター日だった。

(後団・Y)

徐々に心がうち解けて...



マレーシアの街並み

シンガポール大学の生徒学生と対面

本日彦根に到着



4日め①



大学生とともに班別研修

4日目はシンガポール市内の班別研修と、ナイトサファリ。深夜にシンガポールを発ち、本日彦根に到着する。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

最終日。天候は相変わらずの曇り空。班別自主研修の始まりである。現地のシンガポール大学の学生ガイドと共に一斉にホテルから立っていき、最後の朝食も相変わらずの

美味しさ。市外を巡り、大分馴染んだ英語とジェスチャーで行き先を聞いてもらう。地下鉄であちこちを廻り、予定に沿って歩く。途中でまたもスコールに遭ったり、高層ビル群に囲まれて道を間違ったりとトラブルもあつたものの、財布をどんだん軽く、手荷物は段々重くして集合場所に到着。夕食はサファリパークでのバイキング。

豆知識④

街がすがすがしいのは…

今回の研修ではシンガポールの街中をバスで走る機会が多かった。バスから外を眺めていると、何故か、清々しくなった。誰に言われることなく、先入観なく、そう感じた。

ガイドのミサさんが答えを教えてくれた。端的に言うと、街中に緑が多いからということだった。確かに言われて見れば周囲は緑だらけだった。街の中にも林が広がっている。「だから爽やかなのか〜」。

しかし実は、街の緑の存在には更に所以があった。シンガポールでは、何にも使用されず空いている土地には、全て芝生を植えないといけないという法律があるのだそうだ。また、道端にある標識、ガードレールなどの人工的なものは基本的に緑色に塗装されるのだそうだ。だから街中は建造物以外、殆ど爽やかな緑色をしている。少し騙されたような感じもするが、清々しいのは良いなあと思った。

(前団・鷲)

MRTの切符を買う。



空港に向かうバスの中。寝息と談笑が掻き混ぜるゆつたりとした雰囲気。この旅行をさせて頂いた親に、改めて感謝する次第である。

(前団・高嶺)

時間も長く取られ、席は沸いた。辺りも暗くなり、カメラのフラッシュがあちこちで瞬く。最後のイベントはトラム

という車両に搭乗して森の動物達を眺めるナイトサファリ。ライオン、ソウ、カバやバクイなどが淡いライトアップで映し出され、車内から感嘆の声が上が

財布は軽く

荷物は重く



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

新報新
取材日
4日め②



いよいよ最終日、今日でシンガポールともおさらばである。そろそろ恋しくなってきた日本食ももうすぐ食べられる。というこで、皆の

地下鉄で街に繰り出す若者達



市内観光でぐったり ナイトサファリでまったり

顔にもどくと無く安堵が感じられる。あれ、感じられないう？そうですか。今日は毎に別れ、現地の大学生が付き添つてのシンガポール市内観光をする。タウンやセントーサ島など観光地は多数あり、事前に話し合つて決めた行動計画に沿つて観光を楽しむわけだ。後団のメンバーはホテルの場所

の都合上、バスでニュートン駅に移動してから行動する。行きのバスの中は別段普段と変わったところはなかった。移動には地下鉄などの交通機関を使う。交通網が発達しており、かなりスムーズに移動できる。ハイテクだ。わたくしのグループでは現地の大学生とアニメの話で盛り上がったが他の班のことは知らないのここではこれ以上語らない。ご想



うきうき 市内観光。

像にお任せします。その後は動物園の方へ行き、夕食とこの旅最後の行事となるナイトサファリにくりだした。ナイトサファリでは象などのお馴染みの動物から世界四大珍獣まで様々な種類の動物を見ることができ、皆楽しんでるようだった。

四日間も日本を飛び出し異文化を感じた私たちが、肌が黒くなる以外の変化をしてあなたにたにあげることを期待します。(後団・Y)



僕のお店において

アニメの話で盛り上がる



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

新研修
取材日誌 4日め③



今日は班別研修で
現地学生の方達とに率
いてもらいシンガポ
ール国内を回った。

チャイナタ
ウン、セン
トーサ島と
有名所を回

バイキング楽しむ



夕食はたらふくバイキング

シンガポール大学の大学生との
交流を終えた生徒たちはバスに乗
り込み、研修最後となるナイトサ
ファリが行われる動物園へと向かっ
た。この動物園では動物を放し飼
いしており、世界中から高い評価
を受けているという。生徒はこの
動物園でバイキング形式の夕食をとっ
た。料理は特に辛いものや刺激の強
いものもなく、日本人の口に合った
ものだった。

夕食後はサファリパークまでの時
間を利用して現地の人々による熱狂
的なステージを鑑賞したり、買い物
を楽しんだりした。ステージでは裸
にふんどしを着けただけのような姿

ステージにも上がった



の男性たちが、
燃えさかる棒を
振り回したり口
から火を吐いたりして、
観客を盛り上げさせた。
途中本校の生徒も、ステー
ジにあがって、まねを
したりした一面もあった。
時間は飛ぶように過ぎ

ナイトサファリ

で、とうとう最後の研修になるトラ
ムツアーの時間になった。トラムで
は日本語が話せる現地ガイドが動物
の紹介をしてくれた。カピバラやシ
オンヤトラ、ハイエナのように自然
と息をひそめてしまうものもいた。
公園内で観察した動物の中には絶
滅寸前であるものも多かった。ある
生徒は「危機に瀕している動物を目
の当たりにして、世界の環境問題の
重大さを実感しただけでなく、普段
図鑑でしか見られない動物を实际に
見られたことも大きな収穫になった
と思う」と感想を話した。

(前団・鷲)

動物園でカ
ワウソを発見!

バイキ
ングの
中には
日本料
理も少



セントーサ島に
は野生の孔雀が。

しだけあった。その
後ナイトサファリに
向かった一同は夜に
活動する動物達をい
くつかは確認できな
かったようだが楽し
んだようだった。

る班は多く、足が棒になる
まで歩き回ったようだ。学生
と別れ夕食場所であるシンガ
ポール動物園に来た一同は一
様に疲れた様子であったが、
バイキングを楽しんだようだ。

その後再び一同はパ
スに乗り込みチャンギ空港に。
靴が壊れるなど多少のハプニ
ングがあった生徒もあったも
のの順調に手続きをすませた。

編集後記

お読みいただき
ありがとうございました。
新聞部一同

(前団・慧)